



2025年 6月26日  
第211号

# JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一  
編集 情宣 担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

## イーハトーブ

6月25日号

沖縄にとって大切な日である6月23日を今年も迎えた。神奈川県に住んでいるとこの日がどのような日だったのかわからない人も多いだろうし、私自身もかつてはそのように思っていた1人であった。日本国内で唯一地上戦が繰り広げられ、日本軍だけでなく無実の住民までも巻き込まれた沖縄。この6月23日は第32軍司令部牛島満司令官が「生きて虜囚の辱めを受くることなく、悠久の大義に生くべし」の言葉を遺し自決したことによっていわば「組織的な戦闘が終結した」日である。司令官を失った沖縄の日本軍や住民は劣勢に立たされていた日本ということを知ることなく、アメリカ軍に見つかって降伏してはならないと教えられていたことから、集団自決を選ぶ住民も多く、究極の精神状態に追い込まれていたのだろう。そのようなことを学ぶきっかけとなったのは、JR東労組が主催する平和研修に参加したからである。自らの目で見て、肌で感じることで得られたものは多くある。沖縄を訪れるときに那覇空港に降り立つと、まるで米軍基地の中に空港があるかのように有刺鉄線が張り巡らされていることに違和感を持つ。同じ日本国内にいるのにどこか異世界に來てしまったのかのように感じる。だからこそ、現地に立ち学ぶことの重要性を実感できるのである。

今年には戦後80年を迎える。しかし、世界各地での戦争は未だに続いており、本当の「戦後」は訪れていない。また、ロシアによるウクライナとの戦争、パレスチナ自治区・ガザ地区での紛争、そして最近ではアメリカ軍によるイラクへの核施設攻撃など、武力による制圧で押さえつけようとしている。そこでもいつも犠牲となるのは兵士だけでなく、何の罪もない弱い立場にある市民である。それは女性や子ども、お年寄りだけでなく、私たちのような労働者がいつも犠牲となる。武力による制圧ではなく、平和を希求していくためにはどのように行動していくべきなのかを真実を見定める力を養うためにJR東労組が主催している平和研修などに参加し、今から行動していこう！

(A・E)

### イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行います。